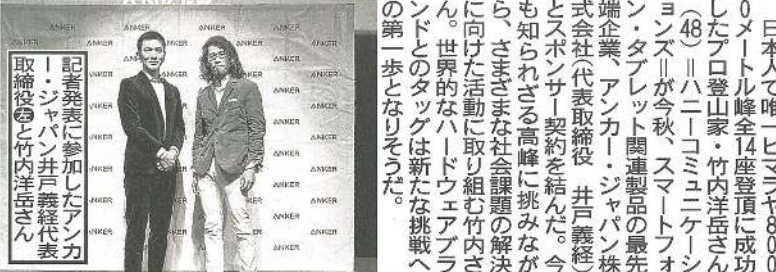


ヒマラヤ8000×14座全登頂プロ登山家——新兵器手に未知の高みへ

日本人で唯一ヒマラヤ8000メートル峰全14座登頂に成功したプロ登山家・竹内洋岳さん(48)は「ハニーコミュニケーションズ」が今秋、スマートフォン・タブレット関連製品の最先端企業、アンカー・ジャパン株式会社代表取締役、井戸義経とスポンサー契約を結んだ。今も知られざる高峰に挑みながら、さまざまな社会課題の解決に向けた活動に取り組む竹内さん。世界的なハードウェアブランドとのタッグは新たな挑戦への第一歩となりそうだ。



記者発表に参加したアンカー・ジャパン井戸義経代表取締役と竹内洋岳さん

「最も過酷なストレステストに(笑い)壊れない」

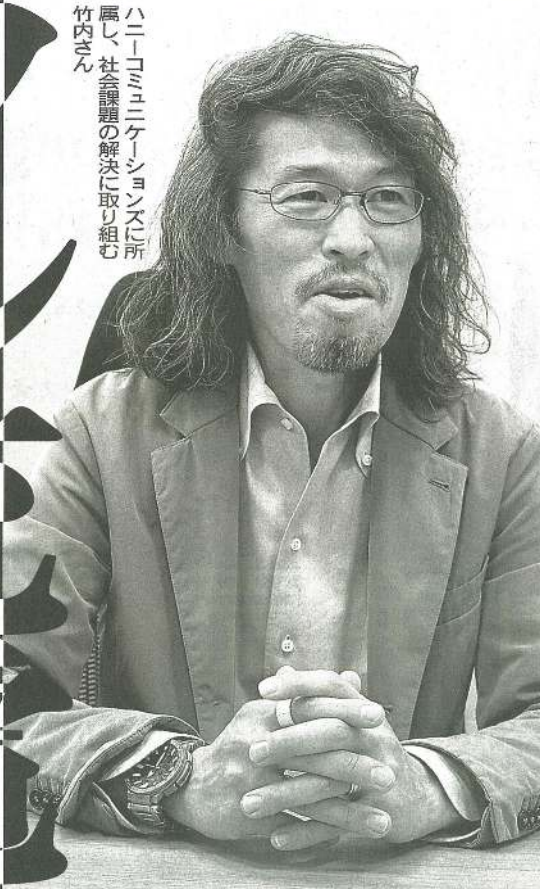
生死の境目から生還した本物の登山家は、大げさな言葉を使いたがらない。雪崩による300メートルの滑落体験でさえも、淡々と語って来た竹内さんは、まさにその一人だ。強烈な体験をわざわざ言葉で飾り付ける必要などないからだろう。そんな竹内さんが、アンカー・ジャパンとのタッグをこう表現した。「私にとっての大きな挑戦だと思います」

同社は、米・日本・欧州のEC(電子商取引)市場において、スマートフォン・タブレット関連製品でトップクラスの販売実績を誇る。時代の最先端企業だが、登山関連商品を扱っていないわけではない。「イメージ戦略ならアイドルを使えば手っ取り早い。私が選ばれたからにはイメージではなく、リアルなものが必要とされる。井戸社長にとても大きな挑戦でしょう。これから挑戦のせめぎ合いが始まるという緊張感がすごくありますね」

「時代の最先端の装備を使うのが登山家の使命」。これが、竹内さんの登山哲学と見える。ウェアや登山具に限らず、通信機器に不可欠なバッテリーも、登山装備の重要な一つだ。ひと昔前はベリスキャンパに重たい発電機を持ち込んでいたが、低酸素という環境ですぐ壊れてしまう。ソーラー電池は普及して来たが悪天候では使えない。充電式のモバイルバッテリーの進化は登山家にとってどれだけ心強いことか。数社の製品の中から竹内さんが選び出したブランドが、アンカーだ。理由は「小さくて、壊れないからなんです」と単純明快だ。

だが、それは到達点ではなく、出発点だ。14座登頂を通過点ととらえている竹内さんは、まだまだ知られざる高峰へと挑んでいく。「高所という世界で、製品に最も過酷なストレステストができるわけです(笑い)。製品の潜在能力を引き出すことにも挑戦したい。そしてアンカーの製品がなければできない、ということをやってみたいですね」

竹内洋岳さん



ハニーコミュニケーションズに所属し、社会課題の解決に取り組む竹内さん

フル充電

日本人初の偉業
竹内 洋岳(たけうち ひろたか) 1971年1月、東京都生まれ。都立一橋高、立正大学山岳部に所属。1995年のマカルー登頂以降、8000メートル峰に挑み、2012年のタウラギリ1峰登頂で、日本人初の全14座完全登頂を果たした。13年、植村直己冒険賞、文部科学大臣顕彰スポーツ功労者顕彰を受賞、立正大学客員教授に就任。今年11月、21年在籍し、た石井スポーツとはアスリート契約となり、株式会社ハニーコミュニケーションズに移籍。登山経験を生かして野外教室、防災啓発など様々な社会貢献活動に取り組んでいる。180センチ、65キロ。